

経営比較分析表（令和6年度決算）

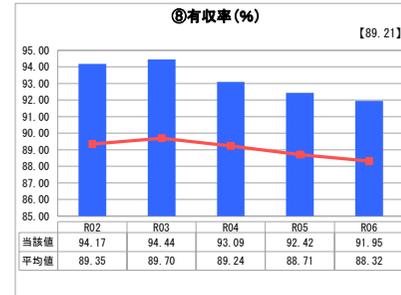
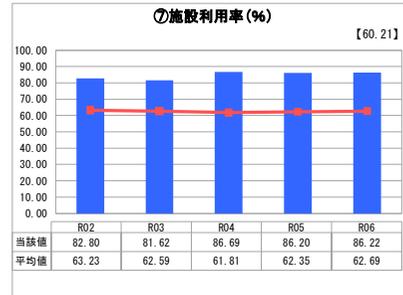
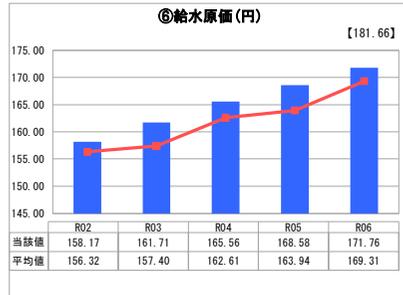
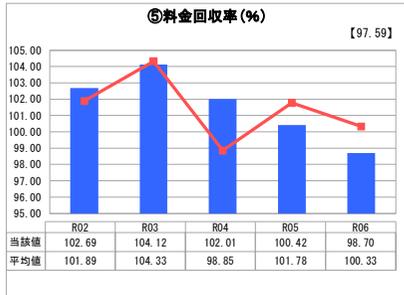
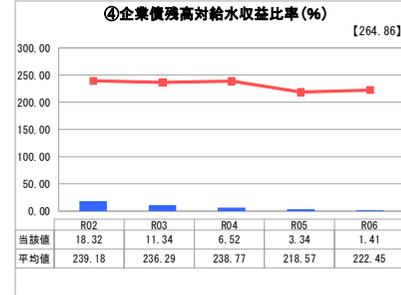
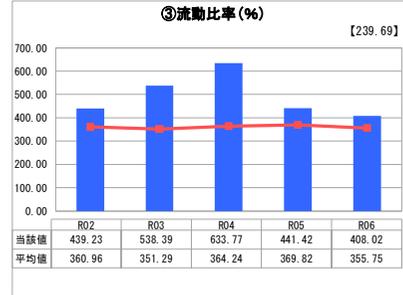
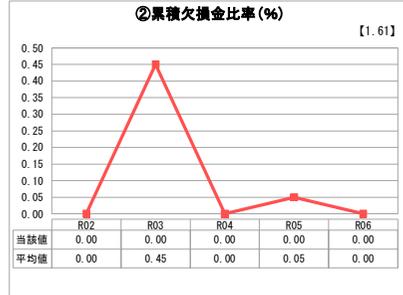
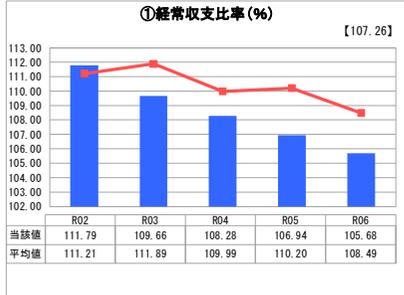
埼玉県 橋川北本水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員 その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	94.98	99.66	3,223	

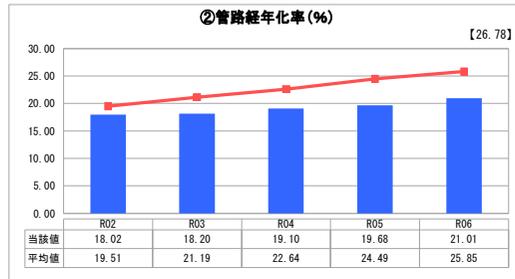
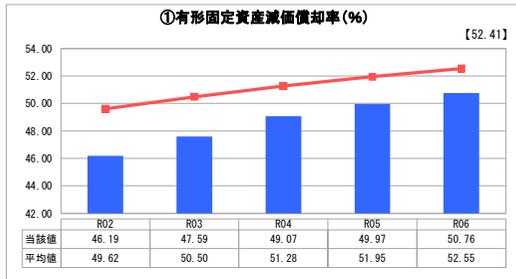
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
138,743	45.17	3,071.57

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
人口減少に伴う給水収益の減少及び経常費用の増加が進行したことに伴い、下降した。ただし、100%を超えており、収支の黒字を維持している。

②累積欠損金比率
累積欠損金の発生は無く健全な状態を維持しているが、給水収益の減少と維持管理費の増加が進行しているため注視している。

③流動比率
下降傾向にあるが、類似団体や全国平均を上回っており、短期的な債務に対する支払い能力を保持している。

④企業債残高対給水収益比率
企業債の償還が進んだことにより、下降した。新規借入をせず自己財源による設備投資を維持しているため、類似団体や全国平均よりも企業債残高が少ない状況で推移している。

⑤料金回収率
人口減少に伴う給水収益の減少及び経常費用の増加が進行したことに伴い100%を下回り、給水に係る費用を給水収益のみで賄えない状況に陥じた。

⑥給水原価
上昇の主な要因は、電気料金の上昇に伴う動力費、複数年工期で竣工した管路工事の複数発生に伴う減価償却費、国の給水と改定に伴う給水費の上昇が挙げられる。他の費用も増加傾向のため、業務改善や経費削減に努め、効率的な経営を推進する必要がある。

⑦施設利用率
類似団体や全国平均を上回り、有事対応の余力を残しつつ、適正規模を効率的に利用している。

⑧有収率
類似団体や全国平均を上回っているが、前年比で下降した。地上に表出しない地下漏水の増加等が要因として考えられる。漏水調査、漏水多発地域の配給水管や老朽管の計画的な更新を継続し、漏水による有収率低下の抑制に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体や全国平均を下回っているが、上昇傾向で推移している。今後も上昇する見込みであるため、計画的な施設の更新を継続する。

②管路経年化率
類似団体や全国平均を下回っているが、上昇傾向で推移している。今後も上昇する見込みであるため、計画的な更新を継続し、更新率の向上に努める。

③管路更新率
類似団体や全国平均を下回っているが、駅周辺や市街地、県道等を重点的に更新していることが要因である。計画的な更新を継続し、更新率の向上に努める。

全体総括

経営の健全性・効率性の面においては、収支の黒字は維持しているものの、料金回収率が100%を下回り、給水収益のみで給水に係る費用を賄えない状態に陥じたため、経営の健全性を回復させるための措置や計画を検討する必要がある。

老朽化の状況については、収益が減少する一方で施設の維持管理費用や更新費用が上昇するとともに、管路においては更新距離の短い駅周辺や市街地を重点的に更新していることから、更新率を飛躍的に向上させることは難しい状況にあり、老朽化した施設や管路の割合が上昇している。

今後は料金回収率や経常収支比率の動向を注視しながら、企業債の新規借入れや適正な水道料金についての検討を含めて収支構造の改善を図り、健全な経営状況のもとで、橋川北本水道企業団水道事業プロジェクトに基づいた計画的な施設更新及び水道事業の運営に努める必要がある。